

鴨川ふるさと会だより

— 第19号 —

鴨川ふるさと会発行 事務局：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課内） TEL：04-7093-7828

第2回ふるさとセミナーの開催 ～千葉県最高峰愛宕山への道～を開催



と道中は急な階段等が多く、参加者のみなさまも息を切らす場面なども見られましたが無事に三角点へ登頂することができました。三角点では、隊員の方から参加者全員に登頂記念カードが配られ、各自記念撮影等行いました。愛宕山は県内最高峰ではあるが、全国各県の中では最も低い最高峰であるといったお話なども教えていただきました。

その後、東京湾まで一望できる眺望台へ移動し、普段見降ろすことのできない大山千枚田や長狭地区の里山風景など絶景を一望しました。天候に恵まれたため、遠く富士山の雪化粧も見ることができました。

大山千枚田内にある棚田カフェごんべいでは、地元食材を使った特製里山弁当に舌鼓を打ちました。中でも、房総の郷土料理である太巻き祭りずしやこの地域では古くから食されているチッコカタメターノ（カッターチーズ、酢を使わないこともあり）を

使った煮物、ふきのとうの天ぷらなど、地域ならではの料理を楽しみました。

また、食後には千枚田内を散策し、春の田園風景を満喫しました。

観音寺では、小幡治枝氏による憂国の烈女畠山勇子の一人芝居と畠山勇子の雛人形、つるし雛の見学をしました。

畠山勇子は慶応元年（1865年）、前原町（現在の鴨川市前原）生まれ、明治24年にロシア皇太子が警護中の巡查に切りつけられた天津事件での国家存亡の危機に憂い、両国の和平のためにと京へのぼり、謝罪の自刃を遂げました。観音寺へは勇子の遺骨が京都末廣寺から分骨、その後顕彰碑が建立されており、その縁で勇子の雛人形が奉納されています。

小幡氏（館山市在住）は勇子の生涯に縁を感じ、勇子の偉業を称え多くの人に伝えるために、今回の一人芝居のほか勇子に関する著書を出版するなど幅広く活動を行っています。

ます。一人芝居の後は、お茶菓子等をいただきながら、境内いっぱい飾られたつるし雛を見学しました。当日はひな祭りということもあり、境内は多くの人でにぎわっておりました。

今回のセミナーでは、普段入ることのできない峯岡山分屯基地やひなまつりの時期に一週間限定で公開される観音寺の雛人形など、鴨川の魅力をさらに深めることができました。



3月3日（土）、第2回ふるさとセミナー「千葉県最高峰愛宕山への道」を開催し、総勢25名にて、航空自衛隊峯岡山分屯基地、棚田カフェごんべい、観音寺の3カ所を見学しました。当日は天候にも恵まれ、温暖な春の鴨川を感じることもできました。



「人生の岐路」

鴨川ふるさと会理事

小川 三喜男

孔子の言葉に、

「子曰く、

吾、十五にして学に志す。

三十にして立つ。

四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳順う。

七十にして心の欲する所に

従いて矩(のり)を踰(こ)え

ず。」

とありますが、62歳を迎えた私においては、まだまだ毎日が戸惑いの日々であります。しかも「耳順(じじゅん)」どころか家族からは人の話を聞いていないとあきれられ、天命とは何ぞやと思えばぐるぐる日々を過ごしています。

昨年11月末、61歳10ヶ月で、およそ40年間のサラリーマン(会社員)生活にピリオドを打ちました。いわゆる定年というものです。

思い起こせば、この間には「会社」という後ろ盾とその組織の力により、我が身の實力以上の仕事にチャレンジする機会も与えていただき、充実した時間を過ごすことが出

来たと思っております。

しかしながら、ある時はサラリーマンが辛い時もあり、早く定年が来ないものかと思つたりしたこともありました。

そしてまったく勝手なもので、離職後数ヶ月が経過しますがなぜか現役時代を懐かしんでいる自分がいたりもしま

す。

今の時代、定年といつても60代はまだまだ若く、年金生活もままならないという社会的背景もあり、再就職や帰郷による転職等で現役を続投する方々が大勢かと思えます。

私自身にも、ここへ来て家業の手伝いとその後の継承というUターンとなる帰郷の誘いがありました。還暦を過ぎた我が身が人生の老境であれば、実家の姉も確かに老境を十分に過ぎており、後継者の必要性は明らかです。家業を継いだ姉は独身で、よくここまで苦勞を重ねてやってきたと今更ながら感心しております。

私にとって長いサラリーマン生活の後、家業である旅館の経営に携わるといふのは、まさに青天の霹靂(へきれき)といつても過言ではありませ

ん。

今後、微力ではありますが私の経験が役に立つのであれ

ば、もうひと頑張りしてみようかと考えています。

また、私にはよくわかりませんが、もしかしたらまさにこれが天命というものなのかも知れません。

これからは先人の教えに倣い耳順を心に刻みつつ、家業に関係する皆様及び社員の皆様の力を借りて、旅館を盛り立てていこうと気を引き締め

ているところです。

末筆ながら、今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



新規会員を募集しています！

本会では、年間を通して新規会員を募集しています。

本会報の発送に併せて、会員募集用のチラシ(兼入会申込書)を同封させていただきました。

会員の皆様のお知り合いの方で、鴨川出身の方や鴨川にゆかりがあり鴨川を応援したいという方へお配りいただくなど、会員の募集にぜひご協力ください。

なお、入会の流れは以下のとおりとなります。

①チラシに必要事項を記入し、事務局(市企画政策課)あてにFAXする。(郵送・持参も可)



②事務局から入会申込者へ年会費払込票、活動紹介、ふるさと大使のご案内等を送付します。



③事務局で年会費の入金が確認できたら入会完了です。

掲載記事を募集します！

事務局では、会員の皆様からの「鴨川ふるさと会だより」への掲載記事を募集しています。日頃感じていることや、ふるさと鴨川への想い、身の回りの出来事などを会員ページに掲載してみませんか。

今号では、理事の小川三喜男さんに「人生の岐路」というテーマで、ご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

今後も、この「鴨川ふるさと会だより」を、会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、どうぞお気軽にご利用ください。

2017プレナスなでしこリーグ2部【確定】

順位表 / 2017年10月07日

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	日体大FIELDS横浜	42	18	13	3	2	44	13	+31
2	セレッソ大阪堺レディース	41	18	12	5	1	51	19	+32
3	愛媛FCレディース	29	18	7	8	3	30	18	+12
4	オルカ鴨川FC	28	18	7	7	4	21	12	+9
5	ニッパツ横浜FCシーガルズ	24	18	7	3	8	20	22	-2
6	スフィーダ世田谷FC	23	18	6	5	7	30	27	+3
7	ASハリマアルビオン	23	18	7	2	9	21	30	-9
8	岡山湯郷Belle	19	18	5	4	9	22	35	-13
9	FC吉備国際大学Charme	18	18	5	3	10	16	32	-16
10	コノミヤ・スペランツァ大阪高槻	3	18	1	0	17	11	58	-47



オルカ鴨川FC 2017シーズンの報告

▼なでしこリーグ1部昇格ならず(2部を4位で終了)

チーム結成4年目にして、なでしこリーグ(日本女子サッカーリーグ)2部に昇格したオルカ鴨川FCは、2017シーズンは、なでしこリーグ1部昇格を目指して全国の強

豪チームと渡り歩いてきました。

開幕3連勝と波にのり、良いスタートが切れたものの、そのあとは引き分けといった勝ちきれない試合が続いてしまい、リーグ全18節を終えて、最終順位は7勝7分4敗・勝点28の4位。1部昇格圏である上位2位チームに食い込むことができず、なでしこリーグ1部昇格は来シーズンに持ち越しとなりました。

▼オルカ鴨川FCU・15を創設

昨シーズンのセカンドチーム「オルカ鴨川BU」の創設につづき、房総から未来のなでしこを育成すべく、「オルカ鴨川FCU・15」が新たに創設されました。さらには、アトレチコ君津と連携し、「U・15南総」もあわせて創設し、房総広範にわたる女子サッカー選手の発掘・育成活動を展開しました。

始動初年度の昨シーズンについては、中学3年生2名、2年生2名、1年生7名の計11名での活動となりました。



また、愛媛県で開催された第72回国民体育大会サッカー競技・女子の部でも、千葉県代表として選出された村岡選手は全試合にフル出場し、千

シーズ途中、ケガにより10人での試合を余儀なくされたりと厳しい状況も多くありましたが、まだ1年目ということもあり、決して楽ではないこの経験を糧に、今後の活躍に期待します。

▼村岡真美選手
U・19日本女子代表で日本の大会連覇に貢献
中国で開催されたAFCU・19女子選手権(大陸選手権)に、オルカ鴨川FCの村岡選手が日本代表として選出されました。中でも、3戦目の韓国戦では村岡選手が先制点となる豪快なミドルシュートを叩き込むなど、日本の大会連覇に大きく貢献しました。

また、今シーズンは新たに国内選手9人、外国人選手2人のメンバーを加えた新体制で3月21日(水)からスタートする開幕戦に挑みます。引き続き、温かいご声援をお願いします。

また、愛媛県で開催された第72回国民体育大会サッカー競技・女子の部でも、千葉県代表として選出された村岡選手は全試合にフル出場し、千

いたします。
▼ふるさと会会員の皆様へ
2017シーズンも応援ありがとうございました。
なでしこリーグ1部昇格を目標に、また、地域愛と社会貢献への想いを常に持ち、オルカ鴨川FCは2018シーズンも全力で駆け抜けます。選手たちのさらなる活躍のため、練習や試合での応援をはじめ、オルカフレンズ(オルカ鴨川FC後援会)への入会など、引き続き皆様のサポートをお願いします。



© ORCA Kamogawa FC

ふるさとぽーと寄附金

(ふるさと納税)

本会では、ふるさと鴨川の更なる発展に寄与するため、「ふるさと納税」による積極的な支援を勧奨しています。

▼台風被害による災害支援

平成29年10月23日に上陸した台風21号による被害への支援を募りましたところ、平成29年11月23日から平成30年1月31日までの70日間で、25万8千580円ものご寄附をいただきました。

お寄せいただいたご寄附は、漁港や市道をはじめとした施設の補修など、台風被害からの復旧に活用させていただきます。

▼平成28年度の実績

平成28年度の寄附金総額は1億6802万3千円で、平成27年度の3522万6千円と比較して、477%の大幅な増となりました。

主な要因としましては、平成28年4月から、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」からの申込みを可

能とし、インターネット経由でのクレジット決済を可能としたことをはじめ、謝礼品の拡充や、これまで年度内1回限りであった謝礼品贈呈の回数制限を廃止し、同年度内で寄附ごとに何度でも謝礼品を受け取れるようにしたことが挙げられます。

▼平成29年度の改善点

地域のPRや活性化を目的に、昨年度に引き続き謝礼品の拡充を行いました。また、ふるさと納税制度の健全な発展のため、謝礼品の返礼率等を見直しました。

ふるさと納税のお申し出は、年間を通して随時、受け付けています。

また、謝礼品は平成30年度以降もさらなる拡充を図っていきますので、今後とも会員皆様のご支援・ご協力をお願いします。



南房総から世界へ! オルカ鴨川FC

2018
レプリカ
ユニフォーム



今年も開催

清澄ユリの里

清澄地区では、地域活性化活動の一つとして、地域を四季折々の花で彩り、清澄寺へ訪れた参拝客や観光客の方々に華やかな色彩で迎える取り組みを行っております。

平成26年度からはテッポウユリやスカシユリ、オリエンタルなど、様々な種類のユリを植栽し、例年6月上旬から7月初めまでに見頃を迎えます。今年も清澄地区ではボランティアの方にも協力いた



き植栽を行いました。
場所は清澄寺奥の仏舎利塔。色とりどりのユリ達が鮮やかに彩りますので、是非みなさまお立ち寄りください。
HP: きよすみへようこそ
(<http://www.kiyosumi.info>)